礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行 編集
若松高校新聞部
印刷所
阪本印刷所 ㈹1527

行事予定

8月21日	登校日
9月1日	二学期始業式
9月上旬	文化祭
下旬	体育祭
10月上旬	修学旅行

生徒会に関心を

生徒との対話ほしい執行部

◆…最近の生徒会の活動では、諸問題は以前と何…◆

◆…ら変っていない。生徒と執行部はこれを反省…◆

◆…し、生徒会を発展させていきたいものだ。……◆

いつまで続くのか

カラ回り状態

「生徒のための生徒会」よく聞く言葉である。しかし、現在の若高生徒会には全くあてはまらない言葉であると言っても過言ではないだろう。現在の生徒会には、いろいろな問題が課されている。風紀問題・美化問題の改善である。だが、これらの問題は全く以前と変わっていない。

六月に行なったアンケートを見ると、驚くべきことに四分の三以上の生徒が生徒会には関心がないと答えている。生徒が生徒会に関心を持たずに、生徒会が活発になるはずがない。このような状態では、生徒会が不活発になるようなことはあっても、活発になるということはありえないであろう。

生徒の生徒会への無関心は、たとえば、専門委員会の状態などにも現われている。専門委員会を開いても流会が多い。そして、会が始まっても議題を真剣に考えている委員は、いつも決まっている一部の委員だけである。また、専門委員会が専門委員だけの委員会になっては、誰のための、何のための専門委員会であるかわからない。生徒が生徒会は自分達のためにあるんだと自覚しなければ、生徒会は発展しないであろう。

同じくアンケートの結果を見ると、現在の生徒会は活発であると思っている人は、ごくわずかであり、大部分の生徒は不活発であると考えている。そこまでわかっていながら、生徒会を活発にしようとする気さえ、若高生には起きないのであろうか。年に二度行なわれる執行部改選は、決まって信任投票であり、昨年度後期の改選では、任期の半分がすぎてやっと立候補者が出たという始末である。そして、その立会演説会では立候補者の演説さえも真剣に聞こうとした人は少数であった。沖縄について話し合うためにH・Rを一時間とった時でさえ、真面目に考え討議したのは一部の生徒だけである。我々が、このように生徒会に対して消極的な態度ではなく、もっと積極的にならなければ、生徒会の盛り上がりを見ることはできないであろう。

また、生徒会の約半数が執行部は不活発であると考えている。執行部はこの三ケ月間、予算を修正しようとする仕事をやってきた。しかし、その他はクラスマッチ・若戸大会・文化祭・体育祭といった行事に活動が費やされ、以前から残されたままである風紀・美化問題は何一つとして対策がたてられていない。今までの執行部は行事に追われている感じであったが執行部がそのような状態であっては、生徒が生徒会に無関心になるのは仕方のないことではないだろうか。

中には「執行部が何をやっているのかわからない」という意見も多かった。現在の執行部は〝執行部だより〟というものをだしているが、それだけでは、生徒は執行部の活動をよく知ることはできない。執行部は活動を全生徒に伝え生徒の方からも執行部に自分達の意見を言い、お互いに話し合い、生徒会が全生徒中心となることが必要である。

生徒会が活発になるためには、全生徒が生徒会に関心を持つことであり、積極的になることである。生徒と執行部との話し合いによって、生徒会＝執行部ではなく 生徒会＝生徒（自分達自身）となることが必要である。

また、執行部には、残りの任期三ケ月間、行事に追われず、生徒のための活動を期待したいものである。

主張

問われる三無主義

先日、執行部より全生徒に対し「『生徒が新聞代として支払っている二百円は、本当に生徒の意志を反映しているかどうか』を話し合うために、礫陵新聞の発行を一時停止してみては？」という問題が提起された。しかし、生徒の大部分がこの問題をよく理解できないようなので、これまでの経過を少し述べてみよう。

執行部は、無気力・無責任と並んで、若高生の大きな問題とされている無関心を打破しようとして授業料以外の納入金に対する疑問を取り上げた。そして、その第一歩として、新聞代として納められている二百円についての問題を投げかけたのである。

ところが、その後の執行部の処置があまり良くなかったため、生徒間で、この問題について話し合うことなく、新聞発行停止問題へと発展し この時初めて、全生徒にこの問題、つまり新聞代二百円問題が伝えられた。しかし、まだ根本の問題である生徒の無関心打破については、十分理解できるだけの説明がなされていない。したがって、現在生徒諸君の考えるべき問題は、新聞代だけではなく、無関心を含めた三無主義についてである。

もっとも、新聞代については、我々新聞部の発行している礫陵新聞を慎重に検討した上で、判断を下してほしいものである。

では、今度の問題の根本、つまり、無関心を含めた三無主義について述べてみよう。

「あなたは、あなた自身に三無主義が存在すると思いますか」という問に対して、いったい、どのくらいの人が「存在すると思う」とはっきり答えるだろうか。おそらく、そう答える人は、ごく少数であろう。

なぜなら、三無主義の発生は、学校生活における、個人の自由のきかない団体行動から生じたからである。けっして、生徒諸君が全てに疑問を抱き、どうすることもできなくなった状態から生じたのではない。単に「好きな事には一生懸命になるが、嫌いな事はやらない」という、いい加減な態度の中から発生した、いわば、生徒の身勝手な考え方を象徴したものと言っても過言ではないだろう。もし、このようないい加減な態度で生徒諸君が今後の学校生活を過ごすとすれば、いったいどうなるのだろうか。良く考える必要があるのではないだろうか。そして、その一歩として、生徒諸君は自己反省すべきではないだろうか。

現在の若高生にとって必要なのは 好き嫌いにかかわらず、何事にも、努力をすることではないだろうか。その中から、新たに自己を見つめていくことが、一番大事な事ではないだろうか。生徒諸君が、いい加減な態度でいる限り、三無主義はけっしてなくならないだろう。

生徒諸君は、三無主義という一言で、自分自身をあまやかしているのではないだろうか。しかし、それは、真実から自分をごまかし、自らを逃避的な人間にしているのではないだろうか。

そして、この生徒間の三無主義を利用して、授業料以外の納入金を明確にしなかった学校側にも、多くの問題があるだろう。

我々のまわりには、数限りない多くの矛盾が存在している。納入金問題などは、ほんの一部でしかない。一つでも多くの矛盾を解決することが、学校をより良くし生徒自身をより良くしていくことにつながる。

生徒諸君、今こそ学校内のあらゆる矛盾点を追求し、それと同時に、生徒間に、はびこっている三無主義を打破しようではないか。全生徒の手で。

我々は今、何をなすべきか。その点を十分考え、各々に責任ある行動をとってもらいたい。

好成績を残した県大会

庭球部全国大会に出場

4月下旬から各運動部では、地区大会・県大会などが行なわれた。日頃の練習の成果を発揮した結果又はこれからの予定などをここに掲げておこう。

庭球部―四月二十八・九日に行なわれた全日本地区大会では男子団体が三位で、個人では池内・下枝組と橋口・於保組がベスト8。つづく六月十一日には全日本県大会が行なわれ個人では、池内・下枝組が準優勝で橋口・於保組は五位。そこで八月五・六日に山形県酒田市に於いて行なわれる全日本高校選手権大会に進出。

又、五月五・七日に行なわれた全九州地区大会では男子団体が二位、女子団体が四位の成績で、男子個人では橋口・於保組がベスト8。江藤・山田組がベスト16。女子個人では、菊地・田原組がベスト16。つづく六月二十四・五日に行なわれた全九州県大会では、個人・団体共に惜しくも破れたが、現在は十一月に行なわれる新人戦めざして奮闘中である。

みなぎる若さ

水泳部―六月十七・八日に行なわれた北九大会では総合四位で、男子一五〇〇M 山崎大輔 一位 二〇〇M個人メドレー 高瀬篤 一位、一〇〇Mバック 神野康四位、四〇〇M・八〇〇Mリレーは入賞。つづく六月二十四・五日に行なわれた県大会では、決勝まで残ったが惜しくも入賞はできなかった。

ラグビー部―地区大会では、一回戦の相手である門司高校には、勝ったが、二回戦で小倉高校に破れた。新人戦では、大里高校と対戦し 惜しくも破れた。

排球部―地区大会ではベスト6入り。七月下旬には、国体予選が行なわれる予定。

籠球部―国体予選に向けて練習中である。

陸上部―五月二十六・七日に行なわれた北九大会では二〇〇Mで高橋雄二 四位、五種競技で、安河内誠 三位の成績で、つづく六月四日には県大会が行なわれ、五種競技で安河内誠 七位の成績だった。

山岳部―五月二十七・八日に行なわれた地区大会では福智山〜皿倉山縦走コースを完全走破したが上位に入賞することはできなかった。女子三名はオープン参加した。

卓球部―五月六・七日に行なわれた個人戦のシングルでは、ベスト16入り、ダブルスではベスト8入りしたのだが、シングルのベスト8入り、ダブルスのベスト4入りは成らなかった。又、五月十三・十四日に行なわれた団体戦は、奮闘したが二回戦で破れた。

剣道部―北九州新人戦で優勝五月十四日の大会では、三回戦で敗退。しかし、個人では伊藤精二三位の成績。六月十八日、全国大会の県大会に出場し二回戦まで勝ち進んだが、代表者決定戦で破れた。現在は、七月二十六・七日の玉竜大会をめざして頑張っている。

ハンドボール部―今年は、インターハイ出場はできなかったが、新人部員も多いので、来年こそはと頑張っている。

以上であるが、各クラブのこれからの活躍に期待すると共に、生徒諸君にもどんどん応援に行ってもらいたいものである。

代議員会

打破三マセン

一年十八 二年十六 三年十二

これは七月五日に行なわれた代議員会の出席人数です。なるほど3分の2の40名には達してはいますが、これが本当の人数なのでしょうか。これは開会時の頭数にしかすぎないのです。開会時といっても定時刻を大きくわり、定時刻に来た人はもうイヤ気がおそってくる頃です。

それからようやく始められ、議長が議事を進めます。二・三人の人が発言します。そうこうしているうちに何人かがつれだって退場していきます。

これが現在の代議員会の現状なのです。

代議員たる者はクラス全体の代表者として出席しているのに、会議の途中で退場するとは……。いや出席すればまだいい、出席しない人もいるのだから、

（これはどの委員会にも通じることでしょうが）

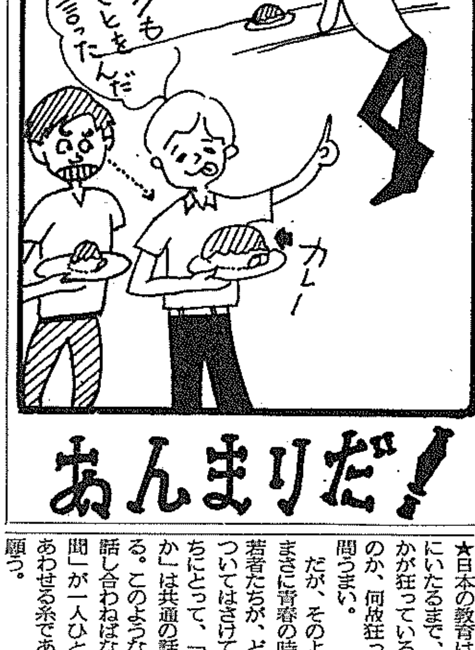
これではクラスの意見も全くといって良い程反映されはしないでしょう。

何のために代議員会が開かれるのか、何のために出席するのかもう一度考えてもらいたいのです。近頃、若高の委員会に対して、

「知リマセン」
「わかりマセン」
「ありマセン」

を、意味する三マセンなどと言われているようですが、三無主義と並んでこのような言葉が若高生の代名詞として、使われるのは、どこに原因があるのでしょうか。

これを打破するためにも、代議員から、会議に出席し、クラスを盛りたてるべきではないのでしょうか。


若高戯評
カレー
キレイだね!
ボクも同じことを言ったんだ
カレー
あんまりだ!

礫陵言

★試験も終った。梅雨どきの採点は頭が痛い。もっと頭が痛むのは、答案をどう読みこなすかである。誤字、あて字はもちろん、、。のない、それこそ四迷のいう「牛のよだれ」的文章に頭をかかえたり、主語と述語がまともに対応しないのをなんとか読みこなしたり 採点がこれ程の重労働であることを人は知るまい。

だが、もっとも当惑するのは、小・中学校の時から、学校ではもちろん、家に帰っても宿題に、予復習、はては塾や家庭教師にときたえられ、高校に入ってからは世界的にも高水準の教材を与えられている高校生諸君の、その高度の教育水準と「読・書・算」の基礎学力とのあまりにも大きなギャップである。

ここには、単に教師の責任や生徒の「怠惰」ですませられない、何か大きな問題がひそんでいないだろうか。

★大学生についても、浅間山荘事件からリンチの発覚、つづいてテル・アビブの虐殺等は、世人をふるえあがらせた。この余韻もいくらか静まったかと思うと、最近では競馬にこった東大生が馬券をすったり、偽記者の九大生が強迫罪でつかまったりしている。

一体どういうことなのだろうか。大学といえば、いわば「知性と青春」のシンボルではなかったのか。これらの行為のどこかに、知性のひとかけらでも、青春の生の躍動の片鱗でもうかがえるだろうか。あるのは青春の空費であり、知性の摩耗ではないのか。

★日本の教育は、小学校から大学にいたるまで、いちばん大切な何かが狂っている。何が狂っているのか、何故狂ったのか、ここでは問うまい。

だが、そのような教育環境で今まさに青春の時代を生きつつある若者たちが、どう生きるべきかについてはさけて通れない。若者たちにとって、「どう生きるべきか」は共通の話題であるはずである。このようなときだからこそ、話し合わねばならない。「礫陵新聞」が一人ひとりの心と心を結びあわせる糸であってほしいと切に願う。

アンケート

て！若高生

ムードの高校生活

さ
の

問題に対して積極的に取り組み、
打破していこうと、これらのイン
タビュー、アンケートを行なった

脱三無 教師・生徒の団結で

いきすぎか 先生方の放任主義

新聞部では、この程、我々若高生が学校に対してどのような考えを持っているのか？また、こうする事によって少しでも若高生の三無を取り除こうという意図から、全校生徒に対して"若高の教師・生徒"・"生徒会"・"風紀"等についてのアンケート調査を実施した。回収率が低く、そのうえ一貫した統計がなされていないため不明瞭な点もあり、また、昨年文化祭で取り扱った事柄と重複する部分も多いが、一応、今回のアンケートに於ける結果を順を追って述べてみよう。

まず初めに、若高に入学して良かったか否かの質問には

良かった　二百二十四名
後悔している　二百三十九名

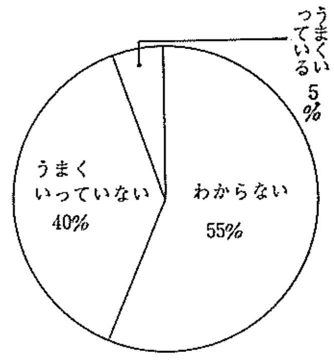
と、ほぼ同数だ。「良かった」という理由としては

○自由である　九十五名
○各面でプラスになる　五十三名
○若高に憧れていた　三十六名
○人間関係・雰囲気が良い
○家が近く、他に行く所がない
○後悔しても始まらない等、どちらかと言えば「良かった」というよりは「あきらめた」と言った感じが強い。また「後悔している」と答えた人の理由としては
○活気がない　百九名
○風紀が乱れている　五十一名
○三無主義にあきれた　三十八名
○教師・生徒間に親しみがない
○校則がかたい
○高校生らしくない等があげられた。

では、後悔の理由としてあげられた教師・生徒間の交わりについて考えてみよう。まず、うまくいっているか否かの質問には

○うまくいっている　三十名
○いっていない　二百三十八名
○わからない　三百十七名

と、ほとんどの人がうまくいっていない、わからないと答えている。そこで、生徒が反感・好感を抱く教師について調べてみると、反感を抱く教師には



先生と生徒の仲は？

○成績だけで生徒を判断しようとする教師　四百四十六名
○機械的に教えているだけの教師　三百八十三名
○言行不一致　三百三十五名
○無責任な教師　二百七十八名
○自分の主義・主張を押しつける
○生徒を信じない教師などが多くあげられた。好感をもつ教師には
○人間性豊かな教師　四百十三名
○生徒の身になって考えてくれる教師　二百七十九名
○自分の主義・主張を押しつけない教師　二百十六名
○自主性を尊重する　百七十四名
○自分の考えをはっきりと言ってくれる教師　百七十名
○ユーモアに富んだ教師などがあげられた。また、どのような教師を求むかについては、好感をもつ教師とほぼ同じだったが、それ以外の意見としては
○職務に忠実である
○生徒を理解し、生徒と共に考え共に泣いてくれる教師など、いろいろな教師を生徒は求めているようだが、果たして我校の教師は、これに該当しているだろうか？次に生徒から見た若高教師の長所・短所を述べてみよう。長所は
○放任主義で生徒の自主性を養っている　百三十一名
○人間味にあふれる　八十五名

他には

○進学について良く考えてくれる　六十四名

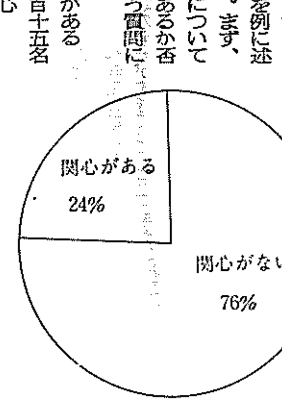
となっており、短所は

○親しみがない　二百六十一名
○形式にこだわりプライドが高い　百七十八名
○熱心さ・情熱に欠ける　百四十名
○放任すぎる
○自分の主義・主張をおしつける
○表面的な指導しかしない
○授業中に無駄話が多く、授業時間を延長する等があげられた。生徒が、教師を批判する事の是非は別として、ここでも又、親しみがない事が指摘されている。また、求める教師と若高教師の長所と少しではあるが一致する点を注目してほしい。また、放任主義が長所であり、短所でもあるということも大いに注目すべきである。

執行部だけが 動かす生徒会

ここで教師については一応打ち切りにして、前述の若高に入学して後悔しているという理由をもう一度振り返ってみよう。それによると、三無主義・風紀の乱れを指摘する者が多くいた。そこでこの三無の一つ"無関心"について生徒会を例に述べよう。まず、生徒会について関心があるか否かという質問には

関心がある　百十五名
無関心　三百八十二名



生徒会への関心度は？

と、予想通りはるかに無関心が上回っている。また、今の生徒会の状態をどう思うかについては

○執行部は良くやっているが生徒が無関心　二百三十七名
○執行部も生徒もなっていない　二百二十名

という結果で、活発であると答えた人はわずか十五名だった。その他には

○執行部が何をやっているのかわからない
○執行部は公約を果たしていない
○執行部は一方的な考えを持っていて協調性がない。一人ずもうでしかない
○執行部に生徒を引っ張っていく力がないなど

という執行部に対する厳しい批判も見られた。

手遅れか 風紀美化

では、風紀・美化問題についてはどうだろう。現状で良いかどうかの質問に対しては

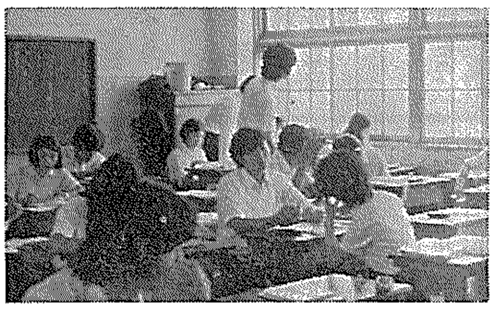
良い　百九名
悪い　四百三十三名

と、これも圧倒的に現状に不満を持つ者が多い。ところで、その対策はという質問には

○個人〱の自覚
○委員会の活発化　百十五名
○生徒会のしくみを改革などの意見が多かった。が、個人〱の自覚が必要とわかっていて実現されていないのはどうした事だろうか。また、これらの意見とは別に、もう手遅れだという意見も多くありここでもあきらめムードがはっきりと見られている。

では、アンケートの最後として質問された若高の規則についてはどう考えているかというと

○生徒が守らなければ規則はあってもなくても同じ　百二十一名
○規則に縛られる規則は無意味だ
○制服・制帽反対　五十八名
○男子の長髪制限を厳しく　五十名
○女子のスカート丈に制限を等、多種多様な答えであった。また長髪については
○長くて不潔感を感じる
○女子の長い髪の人は結ぶべきだ等の意見があった。また、学校全体への不満・希望として
○三無主義を打ち破れ！
○校風を正し名実共に良い学校に
○先生方は放任主義すぎる等、どちらかと言えば、我々生徒の責任であるような事柄があげられていた。また、課外をしてほしいという意見も見られた。



授業が終つてやつと一息

脱三無主義 全員の団結で

我々新聞部はこのアンケートを集計した結果、ほとんどの生徒が生徒会・風紀に対して、無関心だとわかった。また、実行されているか否かは別としても、学校のあり方を真剣に考えている人も、ごく少数で はあるが いるようである。それに先生方が生徒の自主性を重んじているのはいいが、半面それが弊害となり、教師・生徒間の親交や、学校全体の三無に浸った雰囲気の改善の妨げとなっているようでもある。

我々若高生徒会員は、"脱三無主義"のために、まず教師・生徒間の結びつきを深め、また、個人個人の自覚をもって、学校中の教師・生徒が一致団結して、"若高の脱三無主義"を図る必要があるのではないだろうか？そして、そのためには、私達若高生徒は、もう一度新たな目で自分や学校の現状をみつめて、自己を認識し、実行する態度を養う必要がある。

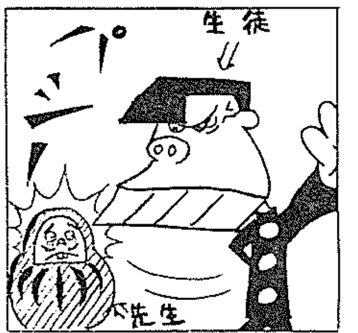
団体に於ける個人の自覚を

他人の迷惑も考えて

じがわるい
○男子でカバンを長くたらしたの

路で待っているのでバスを止めにくい

として集まった時、個人ではどうにもできないような全体的なムードがある等、やはり不満は多いが、又一方では
○高校生らしくハツラツとしている
○就職先等では


生徒
パシ
先生
オマエラー…
手も足も出んのケー!!
マーン!!

投書

何が原因か？ 静かすぎた選挙

四月半ばのことだ。何かに立候補しようと思いながら 決心がつかないままでいるとその矢先、突然立会演説会が始まった。掃除もすんで、さあ帰ろうかとした時だった。全く予期せぬ出来事だった。立候補者のことばを聞きながら、それまでの自分をくやんだ。

思い返してみると、第一回の生徒大会の時、選挙管理委員のような人が、前で何か言っていた覚えがある。さわがしくてよく聞き取れなかった。しかし、これをただ単に、個人的な自分だけの不注意に終わらせてしまうには、どうしても納得がいかないのだ。あの時そのことばをきちんと聞き取った人は、いったいどのくらいいただろうか。時期から、改選があるということは知っていたが、何日に何があって―というようなくわしいことは、演説があるまでわからなかった。選挙にはつきもののポスターにしても、PRにしてもまた選挙管理委員会のはり紙も、期間中 何も見なかったし、聞きもしなかった。今まで見て来た選挙風景の中でも、一番静かなものだった。それなのに結果だけはデカデカとはり出して。全く「民は之に由らしむ可し之を知らしむ可からず」のことば通りだった。

いったい何がそんな静かな選挙を行なわせたのか。突如出現した七人は、みんな信任投票だった。信任投票だから、特別に選挙なんかしなくても、当選したも同じだとか、運動なんかしたって、疲れるばかりだし、しない方が利口だとかいう考えが、立候補者の中に少しなりともありはしなかったろうか。いくら信任投票だとしても 今までそれでまかり通って来たとしても、結局は全校生徒の過半数の支持を得なくては、なんにもならないではないか。また、たかが選挙ぐらいで、などと、運動してまわる人を変人だと思う方もおかしい。生徒会は沈滞している、とかおおっぴらに言うけど、その役員を決める際にそんな態度では、言うだけの資格なんかないのではないだろうか。選挙の時にこそ、我々の意見は大いに繁栄されなければならないと思う。

では、なぜ信任投票になってしまうのか。それは、我々自身そういうものに無関心だからと言われればそれまでだが、それにしてもどうしてそんなに無関心だと決めつけてしまうのだろうか。また立候補者を 募る 期間の短さ、七人定員通りそろえば、もうそれで門を閉ざしてしまう、というようなことはなかっただろうか。無関心だと決めつけてそのこと自体には直接手を触れず、そのまま素通りしてしまったような、そんな風潮がうかがわれてならない。およそ半年間の大事な時期の最高リーダーを選ぶのに その事務を行なう選挙管理委員会が、こんなことでいいのだろうか。また、そうして選挙された役員を、リーダーと呼ぶのは正しいのかどうか。

今回はもう過ぎてしまったことだし、例の七人が活動を開始してから、早くも任期の半分を終えようとしているが、それでもなおかつわり切れないものがあるのだ。

あらしやまふう

カメラアイ

車の横を生徒はテクテク

現在、若高の先生方が、目立って車で通勤されている。中には歩いて、何分もかからないような先生までが、車で通勤されている現状だ。

だから、この写真のように、いつも二十台近くの車が、置かれることになる。

これらの車は、はっきり言って私達にとって邪魔である上、見苦しいものだ。

ならない。それに車から出る排気ガスを、あびながら……。

せっかく私達が、楽しく若高坂を登って来ているのに、この雰囲気も車によって破られる。車がクラクションをならすとき、私達の話題はとぎれ、しらけてしまう。

ああ、私達は毎朝、若高坂の端で車を気にしつつ登校せざるを得ないのか。

これから、ますます車は、ふえ

新刊　雑誌
辞書　参考書
石松書店
本町銀座　TEL (761) 2415

龍そば
本町銀座 TEL (771) 4320
TEL (771) 4047

文具・菓子
釜崎商店
小石峠若高前　TEL (791) 9045

インタビュー

自覚を持て

アキラメムート

「若高生の堕落」という事が、
最近、いろいろな人達の間でささ
やかれている。新聞部では、この

個人の自覚を

他人の迷惑も考えて

通学態度

最近、一般の人からも「若高生の風紀は乱れている」「進学率が落ちた」など若高生に対しての数々の意見を聞く。そこで我々新聞部は一体どのような面で若高が乱れているのかという事を、前述のアンケートとは別に、一般の人々（父兄・卒業生・他校生・運転手・店員等）にマイクを向け、一般から見た若高を調べてみることにした。

長髪については賛成が三名でその理由は

○貫録がある

○時代の流れにマッチしているなどで、反対は五名でその理由としては

○感じが悪い

○だらしがない

○不潔等があげられている。また反対ではないが制限や手入れが必要という人が四名いた。また、女子に対して

○パーマをかけたり、カールした髪・狼ヘヤーは感心しないという意見が聞かれた。次に服装についての質問には

○他校に比べると良い　五名

○女子でスカート丈の長いのは感じがわるい

○男子でカバンを長くたらしたのはみっともない

○ズックのはき方が悪いなど、他校に比べると良いとはいっても、まだ多くの問題がある。また、女子のスカート丈については、アンケート結果に於いても指摘されているので特に注意してほしい。乱れた服装は乱れた精神をも作り出す事を忘れないように。

バスはまだかなア

ところで、登下校態度はどうだろう？徒歩通学者に対しては

○下校態度がダラダラしている

○ガードレールの外を歩いている

○物を食べながら帰っている等の意見があった。また、バス通学者に対しては運転手の人たちから

○上原町のバス停ではみんなが道路で待っているのでバスを止めにくい

○バス内での態度がなっていない

○集団意識も伴ってか騒がしいという事だった。これについては運転手の神経、しいては運転にまで影響することであり、また、他の乗客に対しても迷惑になることだから慎しむべきである。また他校生からは

○停留所で騒ぎあってうるさいという意見もきかれたようである。

ところで、各種の店に行って若高生の店内での態度をたずねると

○用もないのに暇つぶしに来ている

○多勢できて騒ぐ

○品物の上に気楽に荷物を置いてもらっては困る

○本の周囲などを多勢で囲んで、万引きの不信を抱かせるなどと数多くの非難が聞かれた。店は多くの人が出入りする場である。他の客に迷惑となる態度は若高生として慎しむべきである。

これまでに述べたように若高生に対する非難は、あらゆる面において充満している。また今まで述べた以外の事についての意見としては

○昔と比べ緊張感が足りない

○言葉使いが悪い

○女子など頭がいいと鼻にかけている感じだ

○スポーツに熱中している人が少ないようだ

○個人〳〵はいいが、個人が全体

○高校生らしくハツラツとしている

○就職先等では喜ばれている等

という意見も少数聞かれた。

我々の手で問題解決を

これらの意見をまとめて見ると若高生は一般に、昔と比べ緊張感に欠け、長髪・服装・登下校態度など全体的に乱れているという事になりそうだ。また、それが他人の迷惑になっている面も多いようだ。しかし、アンケート・インタビューの両結果から見られたように、個人としては良い面もかなり見られる、それが集団となると影響しあってだらけてくるようである。では一体団体とは何だろう？個人〳〵の集まり、すなわちクラスであり学年であり、学校である。だからその団体である学校を良くするためには、その一単位である学級が個人がそのような意志をもたなくてはいけない。だから、ここでもう一度我々若高のあり方について いくべきなのである。一般の人からの希望の声には

○自分の納得のいく道を進め

○誠実に生きること

○生徒自身が勉強なり、進路なりについてもっと真剣に考えて実現してほしいなどの声があげられた。

我々若高生は、この平和な世の中、拘束されない風紀に甘え、また自分に、そして他人に甘えているのではないだろうか？我々生徒は、もっと深く自己をみつめ、

そして、何か一つでも向上する方法をみつけて実行していくべきではないだろうか。

より良い学校を作るために…。

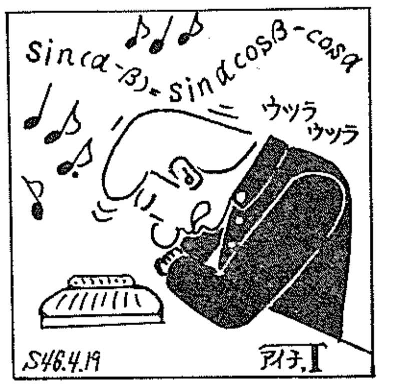
ことになる。

これらの車は、はっきり言って私達にとって邪魔である上、見苦しいものだ。

私達は、路上ばかりか校内に入ってまで車を避けて歩かなければ

ああ、私達は毎朝、若高坂の端で車を気にしつつ登校せざるを得ないのか。

これから、ますます車は、ふえる一方だろう。先生方は、もう少し生徒の身になって考えて！



陽気のせいか、先生の声が…
ーイネムリ常習犯ー

執行部候補者は

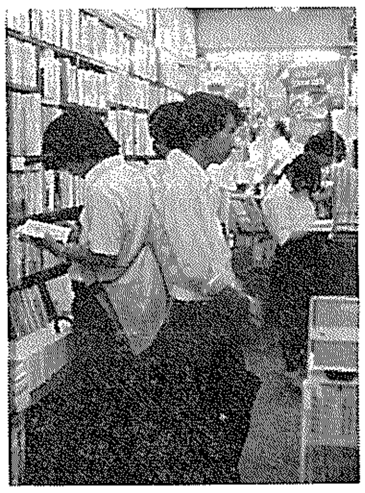
生徒との意見交換を

新聞部のアンケートの結果を見て、予想はしていたもののガクゼンとした。生徒会に関心のある者が四分の一、大部分の者が生徒会は不活発と答えている。そのうちの半数が執行部は不活発であると答えている。なんと無責任なことだろう。確かに執行部に不満の多い者も多いだろう。しかし、執行部を批判するだけではなく、自分自身を反省する必要もあるだろう。本号の投書に書かれているように、四月の生徒会役員改選において、我々は無責任にも、立候補者の考え・公約をよく考えもせず投票し、その結果執行部が誕生したのである。

その投票の際「自分以外の者であれば、誰でも良い」それだけの理由で投票した者がかなり多かった。また、立候補者の演説はいつも同じ内容である。これから先、このような状態では生徒会への不満は少なくならないだろう。

そこで、筆者の意見であるが、立会演説会から投票の日までの期日を長くするのである。そして、立候補者は立候補した後、立会演説会だけでなく、毎日各クラスを回り、生徒といろいろな意見を交し、その後生徒が投票するようにしてはどうだろう。そうすれば、生徒は立候補者の意見をよく理解し、生徒会に関心も出てくるのではないだろうか。また、立候補者にも生徒の意見を知ることができるのではないだろうか。

その他にも、いろいろな方法がある。たとえば、現在の立会演説会は立候補が一方的に意見を述べるだけであるが、これからは、生徒の方からも質問や意見を述べるのである。そのためには、立会演説会の時間を、もっと長くしなければならない。


何の本を読んでるの？

もっとも、その前に立候補者が出なくては話にならない。それには、若高生の自覚・自分達で生徒会を盛り上げようという心構えが必要である。もし現在の若高生にそういう心構えがないとすれば、なんと若高生はなさけない人間の集まりであろうか。

筆者は自分を反省すると同時に君達生徒にも反省を望む。

先生宅訪問

去る六月十一日、我々新聞部員三名は、戸畑区中原町にある英語担当の松本先生宅を訪問した。玄関先でかわいらしい子供さん達に案内され先生の書斎に通された。十分間くらいの雑談の後、さっそく質問を始めることにした。

—先生の御出身地と御出身校は—

大分県の由布院。高校は、八幡高校それから早稲田大学の教育学部（英文科）に行きました。

—先生になられて何年目ですか—

もう十三・四年近くなるかなあ

—御趣味は—

時々、釣に行くことがある。

—御旅行などは—

暇がないから

—本が沢山ありますが、どんな時に読まれますか—

時間のあいたときとか、日曜日の午前中などに読むね。

—家族構成は—

小学校四年の娘と、四つになる娘がいる。四人家族だ。

—好きな食物は—

日本料理が好きだね。

—好きなテレビ番組は—

テレビは、よく見るね。『木枯し紋次郎』や『さすらいの狼』など、

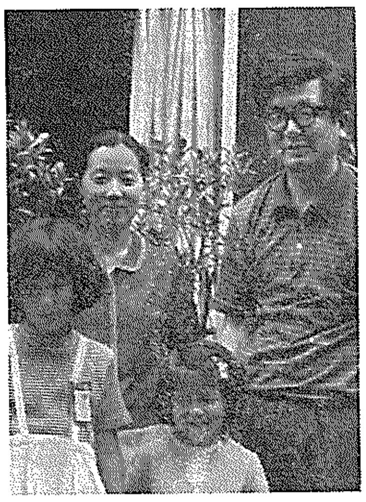
—現在の若高生について—

他の学校と比べて、クラブ活動が活発でないと思う。

—男女交際について—

やりたいことは世の中を変えてみたい

英語科担当　松本先生


にこやかな先生御一家

高校生になったら交際すべきと思うが、ベタベタするような態度は好ましくない。

—若高進学率低下について—

若高は、程度が落ちたなど僕もよく聞くが、実際には、今年の若高の国立大学に合格した人数から見てもわかると思う。教育委員会などからもよく言われるがどうしてそんなうわさがたったのかさっぱりわからないのだが。

—先生は、カネミライスオイル事件に関して大変御熱心ですが—

五島（長崎）へ行って患者と会ったりまた患者を守る会にも所属している。

—今、一番欲しい物、したいことは、ありますか—

時間が欲しい。したいことは　世の中を変えてみたい。例えば、カネミ油症等で働くことができない人には、生活費を支給しゆっくり静養してもらえるように。

—もし学生時代にもどれたら何を一番したいですか—

もっと勉強したいね。

—男子の長髪について—

どうでもよいと思う。（ただし清潔であれば）僕は、服装や長髪のことなどについては、本人が自覚しだいだと思う。

—学生運動について—

全共斗運動からは、いろいなことを学んだが、最近の過激な学生運動は、よく理解できない。

—先生の初恋は—

中学校二年の頃かな？

—御結婚は、御見合？恋愛？—

（奥様が）お見合です。

—先生から見た奥様は—

とても寛容だね。

—奥様から見た先生は—

自分の好きなようにやっていますね。

—夫婦げんかなどは—

やっぱりよくやりますね。

—新聞部の活動及び礫陵新聞について—

定期的なものだけでなく、もっと壁新聞や号外などを出して活発になってほしい。

—教師という職業を一生のものになさいますか—

わからない。

—職員生活の一番の思い出は—

別にこれといってないな。

最後に先生は、高校生は、「考える」ということを常にもってほしいと言われた。

質問を終えた我々は、蒸し暑い中を若松への帰途に着いた。

ちょっと失礼

他校の新聞

我が新聞部には、毎月他校の新聞が何部も送られてきます。そこで、それに記載されていた他校の話題を載せてみることにしました。

▼始業終業の鐘の声、諸行無常の響きあり、サボれる者は久しからず。患者欠点のことわりをあらわす試験用紙の白き色。

▼先生よ、ちょっくら失敬するでぇ。えっ！何するかってそりゃもちろん、腹の虫が泣いているからよ。

▼男子のシューズはなんてすばらしい色だろう。オーデコロンのにおいがするそうだ。

It smells sweet.

何カ月間の努力のせいですかがんばりましょう。

▼〝ねんねんころりよ、おころりよ、先生！ぼくたちを眠らせないで下さい。

▼冬にガラスを入れてくれと頼んだら夏の暑い日に入れに来るそうだ。何と気のきいたことだろう

▼君は一体どこにいく気かね。えっ何、君冗談いっちゃいけないね。欠点が十枚もあるじゃないか、君学校をやめた方がいいのではないかねぇ君——

（高田高校）

▼四月二十七日、西鉄や国鉄のスト騒ぎで登校時間を一時間遅くして授業を実施しました。ある先生なんか、二時間もかかる所から歩いて来たんですって!!イヤ、まいったネ。

▼五月四日、体力・形態測定実施ある女生徒、あっしにゃ、かかわりのねえことでござんすとばかり弁当やパンをムシャムシャ。これとは裏腹に、ある女生徒、体重一〇〇g減少を目標にトイレへ直行アー！なんと涙ぐましい……。

▼今度、売店にコカ・コーラの自動販売器が置かれるんだって。もちろん、皆も知ってると思うけどからになったビンは必ず返しましょうね。いつまでも、三十円を保つために。

▼今年のゴールデンウィークは、日曜日と重ならずにバッチリでしたね。ある人曰く「どうしよう、昨日の時間割とまちがえた。」だって！いかに休みボケかってことがわかりますネ。

（戸畑中央高校）

2分間写真・カラープリント
ダイワ写真工芸
若松区上原町（若松高校前）
TEL (77) 3173

ラーメンの店
珍　軒
若松区本町銀座　TEL(761)5595

正しい視力を提供する
区内全眼科御指定
コンタクトレンズ 特約店
アイチ眼鏡店
本町三丁目８—24　TEL(761)3312

新
辞

どうなる、洞海湾の汚濁

▽これが海か。コールタール色に近い汚濁水。鼻△
▽をつく薬品のような刺激臭。一尾の魚も住めぬ△
▽海。この洞海湾も、まさしく死の海に変身か。△

現在ほど、公害がクローズアップされた時代はないだろう。

一口に公害といっても、多種多様で私達の身のまわりに存在している。たとえば、光化学スモッグ煤煙・水俣病患者・カネミの油症PCB・イタイイタイ病患者等。

洞海湾・響灘と、北九州市近辺一帯の海でさえ、ここ数年、急激に汚濁されている。水面面積四八〇万平方メートル・水量約六、〇〇〇万トン・奥行一三キロメートルざっとこれが洞海湾の状況であるが、洞海湾近隣の工場からは、一日平均約四一〇万トンの工場排水量が流入している。これが汚濁の最大の原因となっている。

そこで、海の公害を追放しようと、『海洋汚染防止法』が制定され、六月二十五日から全面施行された訳だが現状はいかに……。

この制定内容を要約すると、『海は人類共通の貴重な財産として海洋を将来にわたって保護し、自然の機能を保持させるため、国際協力のもとに行なう必要から、先づ、油による海水の汚濁の防止の為、国際条約に基き、船舶からの油の排出を規制すると共に、油以外の廃棄物などの投棄をするために従来の油の排出のみを規制し、船舶の油による海水汚濁の防止に関する法律』である。しかし、こんなりっぱな法が制定されても、一般市民が知らなければ制定された価値はないのと同じだろう。今一度、認識すべき必要があるのではないだろうか。

汚濁の影響を受けたのだろう。今では魚一尾住める海ではない。小石海岸でも、はぜの奇形魚が続出している。DO・溶存酸素というのは、水に溶けている酸素の量を示すものだが、これが三PPM以下になると、魚介類は窒息する。過去、昭和四十五・六年の水質調査では、なんと〇・四六PPMが記録されている。これでは魚が住めるわけがなさそうだ。このままでは半年も経たないうちに、ヘドロに埋めつくされ、本来の海と呼ばれる姿では存在し得なくなるだろう。そうなっては、工場群の単なる私的な海として使いつぶすよりも仕方なくなるのでは……。想像もつかないことだが、あり得る問題である。現に洞海湾の透視度は三〇センチ弱しかないのだから。それに湾は池ではないから、今の汚濁水を外に出さずにすむことはないだろう。

『公害に対する適切な解決法』ということについて若高生にインタビューしてみたところ、

・工場をなくせば良い。

・洞海湾を埋立てれば良い。

こんな声が意外と多く聞かれた。だが単に、工場廃止・海の埋立てこれでは事は解決しないだろう。今の若高生、公害に対してまだピンときていないようだった。

『公害の町・北九州』こんな風になる前に、防止法が出たら出たで、地元住民も徹底的に内容を理解する義務があるのでは？

私達高校生、もっと公害に対して真剣に目を向けても遅くはないだろう。「まだまだ」という安易な気持ちでいれば、公害はひどくなるだけだから。かつての魚の取れる、人も泳げる洞海湾は、再び戻ってはこないのだろうか。

〝ラジオ講座〟登場

三年八組

大学入試要項も出始め、三年生にとっては追い込みの時期である夏休みが始まる。毎日蒸し暑い日が続き、気持ちがダレ気味のうえにあせりも生じてくる。しかし、あくまでも心に余裕を持って、勉強に臨んでもらいたい。

今年の三年生も、色々と勉強の方法を工夫しているが その中で三年八組では、〝ラジオ講座〟を行なっている。これは、生徒からの希望が出て実施されたもので、先生の手は一切煩わしていない。毎日放課後も残り、頑張っているが、最近では、受講者の数がだんだん減りつつあるということだ。これからも挫折することなく続けてほしいものだ。

とにかく、夏休みは受験生にとって、最後の重要な追い込みの時期である。暑さに負けず、自分のペースをこわさないように、一生懸命頑張ってほしいものである。

不満多き生徒たち

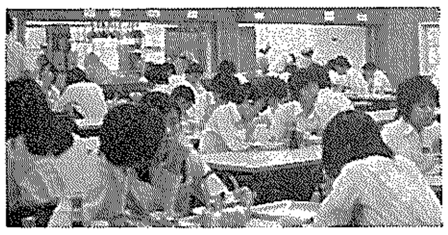
食堂

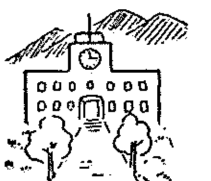
去る、五月八日、全校生徒待望の食堂がオープンした。以来、連日押すな押すなの大盛況ぶりである。四時限目終了のチャイムが鳴ると同時に、食堂へ続く廊下はぞろぞろと人の行列が出来る。中へ入ると、これが又ものすごい人である。急いで行っても、すでに一つも空席がないという状態だ。一体、どこにこの人気の秘密があるのだろうか、不思議である。

そこで、この食堂を利用している生徒たちは、どのような感想を抱いているのだろうかと数人の生徒たちの声を集めてみた。先づ、何といっても一番多かった答えは、「味が悪い。もっとおいしくしてほしい」ということであった。次に多かったものから順に、「値段が高い」・「量が少ない」・「メニューが少ない。」などということであった。小さいことになると「お茶が行き届かない」「ハシが重たいので割りバシにしてほしい」などというようなことまで表われた。全く注文の多いことである。だからこのような理由から、今後はもう食堂を利用しないかというと、そうではない。やはり利用しているのだ。その理由はといえば、「パンでは空腹が満たされない」・「せっかく食堂があるのに……」ということである。ほんとによく色々な考えがあるものだ。驚いてしまう。

ところで、このような多くの不満を投げかけている生徒たちの方には不備な点はないのだろうか。先づ、食券購入の件についてみると、購入時間は三時限の休み時間までということになっているのに最近では、昼休みになると食券売場の前は黒山の人だかりである。

それも、順番というものは全くない。あっちやこっちから手を差し出して食券を買い求めている。順序よく一列に並ぶともっとスムーズになるのではないのだろうか。この事は売店でのパンの購入の際についても同様な事が言える。また使用した湯のみをそのままにして行く人や、土足厳禁とはり紙がしてあるのにもかかわらず、土足で入っている人がいる。このようにほんの小さな規則でも守れないような生徒たちに、食堂に対して不満ばかりぶつけられるものだろうか。もっと、楽しく食事ができる場を作るために、生徒一人一人が協力し合い、そのような場を作りあげていく必要があるのではないだろうか。


お味はいかが？



他校訪問

毎週女子の長髪検査

戸畑中央高校の巻

去る六月十日土曜日、我々新聞部員八名は若戸大会などでは毎年技を競い合っている戸畑中央高校を訪問した。

戸畑中央高校はバス停から歩いて二分足らずの両端にいちょうの木々が立ち並んでいる坂の上にあった。

この学校は昭和三年に戸畑実科女学校として設立され、昭和二十三年戸畑女子高校と改称された。翌年二十四年、県立戸畑中央高校と改称され現在に至っている。また、校舎は鉄筋四階建てで、中はきれいに清掃されていた。また、プールは今年新しく改造したばかりである。

生徒総数は千七十名で、男女比は三対五と女子の方が上回っている。クラス数は本校より少なく各学年八クラスで、一年生から女子クラスが二クラスあり、二年生からは進学組二クラス、就職組六クラスに分かれている。

クラブ数は体育部十、文化部九で、運動部では陸上部、卓球部が活躍している。また、文化部では離島調査をし、本を出版している郷土部などの活動が盛んだそうだ。生徒会活動はあまり活発ではないそうだが、最近良くなったということだ。また、会計は選挙ではなく、総務委員長（我校の会長）が個人で任命するとのことである。

校風は明朗で、進学する生徒が少人数のせいか全体的にのんびりしているということだ。また、三無主義が我校同様はびこっているようだ。

ところで、風紀についていくつか質問してみた。盗難についてはあまり問題はなく、盗られる物と言えばスリッパぐらいのものだそうだ。また、バイク通学は禁止。遅刻者は我校同様多いそうだ。長髪は禁止で、女子は肩より長くなると結ばなくてはならないとのことで、毎週検査があるそうだ。靴は色の規定があり、黒白茶色だけとのことだ。また喫茶店への出入りは禁止だが、ボーリング場・スケート場への出入りは許可されているとのことだ。また、男女交際は禁止である。このことについては、男女共学でありながら矛盾しているとの声も聞かれる。また現状は、交際している人もかなり多くいるそうである。それにしても戸畑中央高校は、我校に比べて規則が、かなり厳しいようである。

また、学校の特色としては、H・Rの時間に講話の時間というのが組まれていることだ。講話の時間というのは、先生方にお頼みして話をしてもらう時間で、これを頼まれる先生は若い男の先生が多いということで、我校に比べて教師生徒間には交わりがあるようだ。

また、顧問の先生のお話によると同校では、先生方が女生徒に甘いということで、ここにもまた女性上位がみられた。

また、文化祭は一年おきであまり盛大でなく、生徒に入場券を二枚配り、一般の入場を制限している。

この日は若高と美萩野女子高の新聞部の防問が重なり、三校合同で、話もはずみ、また若高から行かれた宮脇先生が顧問だったこともあり、楽しくいろんな話を伺い、我々新聞部は夕暮れの中を戸畑中央高校に別れを告げた。

校風を象徴する玄関

秩序のない世界

無責任の国

前号から始まった『話題の地を行く』今回は実在の地ではなく、架空の地を舞台にしてみた。その架空の地とは「無責任の国」すなわち 国民全員が何に対しても無責任な国である。では、この国の生活はどんなものであろうか。

「無責任の国」はどのような政治を行なっているのかというと、実は政治を行なうための議員がいないのである。というのは、国民が無責任であるために、誰一人として立候補する者がいないためであり、また、珍しく立候補者が出ても誰も真面目に投票しないのである。そのため、この国には政府がない。この国を良くしようとする国民は誰一人としていないのである。

また、この国には法律があるにはあるのだが、有名無実な法律である。国民はその法律を守らず、社会の秩序が保たれていないのである。法を破っても、何の罪悪感も感じず、何の罪も与えられないのである。この国においては、法律はあってもなくても同じものである。

「無責任の国」には犯罪が非常に多い。盗みなどはいつものことである。そのうえ、盗んだ側の加害者は他人の物を盗んだ事を悪いとは思っていない。また、被害者は人から物を盗まれたから、自分も人の物を盗んでもかまわないと思っているため、盗難はいうまでもなくならない。

「無責任の国」には至るところにゴミが散らかっている。町かどにクズ入れがあるのだが、誰もそれにゴミを入れようとしない。ゴミを散らかすことを何とも思っていないし、それを拾ってきれいにしようという気持ちさえ起きないのである。

このように「無責任の国」は国民が無責任であるがために、秩序のない世界である。先にも述べたように、この「無責任の国」は架空の世界である。しかし、私達の回りにも、このような世界があるのでは？

若高に四季の花を

若高には、多くの緑がまわりをおおっている。秋などには、木々で囲まれている礫陵園に行くと、イライラした気持ちが吹っとぶばかりである。また、春を思わせるサクラや五月花のツツジが、若高坂を色取っている。

しかし、若高には整った花壇がない。四季折々の花が咲き乱れるような美しい花壇がいたるところにある校庭は夢であろうか。いや夢ではない。美化委員会などが、積極的にそのことに取り組めば、決して夢ではない。

〝美化委員会殿、奮起願います。〟

■編集後記■

今回の礫陵新聞は、生徒から半強制的に集めている新聞代百円をめぐっての論議の中で、一年生の活躍もあって、やっとのことで完成したものです。この論議によって初めて私達は、礫陵新聞の価値観、そして学校新聞の必要性を改めて考え直されました。

これを機会に、全校の皆さんに本当に喜んで読んでいただける新聞を作成するために、新聞部一同よりいっそう努力したいと思っています。今回は、その手初めにまず、生徒のための新聞という意味で若高についてのアンケート・インタビューを中心に、大きく特集しました。短期間にあわてて作成したので、不明瞭な点も多いと思いますが、ここに百二十四号をおとどけします。

広く・明るく・美しく　フレッシュ　丸柏
若松
柏 丸柏
本町3丁目　TEL (761) 1231

舶来化粧雑貨　何でも揃って親切な
みだしなみの店
きねや
本町三丁目5番3号　(71)2651
老松町　(71)2652

服飾手芸専門の店
しらき
若松区明治町